

奈良県小学校社会科副読本の改訂と平城宮跡

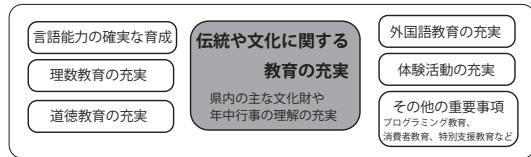
—ESDにもとづく総合学習の教材として—

はじめに 奈良県内の小学校では、中学年の総合学習に副読本『奈良県のくらし』が広く活用されており、昨年度、同書の改訂版の作成に協力する機会を得た。

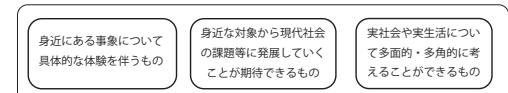
改訂にあたっては、ESDの観点から¹⁾、地域の文化財を守り伝える担い手の育成が目標のひとつとされ、平城宮跡の保存・調査・活用が大きく取り上げることになった。長年にわたる奈文研の取り組みが、教育現場に還元・活用される貴重な機会といえる。

SDGs・ESDにもとづく新学習指導要領と総合学習 持続可能な開発目標(SDGs)への取り組みは様々な分野で進められている²⁾。教育面では、平成29年度公示の小学校の新学習指導要領(以下、新要領)にSDGsの視点が盛り込まれ、2020年4月から全面施行となる。日本で提唱されたESDは、世界遺産に限らず、地域の身近な事象についての現在と過去を学び、未来を考える中で、コミュニケーション能力や多面的思考力などを養うことを目的とする。ESDによる取り組みは、SDGsが掲げる17の目標の達成に繋がるとされ、年間の指導計画の各单元には、SDGsの各目標が意識して組まれることが多い³⁾。新要領の社会科では、3年生は身近な地域、4年生は都道府県について学び、地域に対する誇りや愛着、地域社会の一員としての自覚を養うこと目標として掲げる。全国版の教科書も同様の観点で編集されてはいるが、地域学習にはそれぞれの地域に根差した題材選びが不可欠となる。

新学習指導要領が重視する項目



「総合的な学習の時間」の教材に求められる特徴



奈良県の総合学習の教材

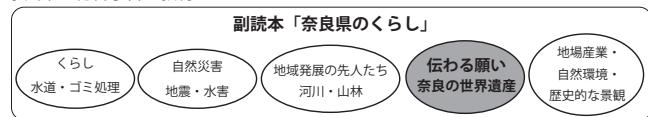


図50 新学習指導要領と総合学習に占める文化財の位置づけ

教材としての「平城宮跡」 『奈良県のくらし』は県内の小学校3・4年生を対象としている。内容は、産業や自然、くらし、災害、伝統、文化財と多岐にわたる。新要領では第4学年の学習項目に、県内の伝統・文化、先人の業績を掲げており、地域にあり続けた「モノ(文化財、自然)」や「コト(祭り、伝統文化、産業)」がどのように継承されてきたのか、子どもたちがその来歴を調べ、先人の苦心や努力について理解を深めることを目標とする。そして、今回その対象として選ばれたのが、長年の保存運動・調査・活用の蓄積を有する「平城宮跡」である。地域の身近な史跡の現在、過去、未来に触れることで、誰かが守らなければ消失してしまう文化財の有限性や、自分の世代だけでなく次の世代にも受け継ぐという公平性に気づき、地域社会の一員としての自覚を育むことが学習目標である。今回の改訂では、平城宮跡の取り扱いが従来の2ページから12ページに拡大し、関連するキーワードも4個から19個に増えた(図51)。以下、各項ごとの改訂ポイントを詳述する。

「平城宮跡の保存につくした人々」—過去・保存運動—

本項では、旧版同様、棚田嘉十郎らの活動を中心に据える。加えて、今回の改訂版では、先人たちの保存運動のみならず、その後の土地の国有化、史跡指定、24号線バイパスを迂回させたことにふれ、様々な経過をたどって平城宮跡が守られてきた歴史を紹介することにした。宮跡内に鉄道が走っていることや、大きく曲がりくねった国道24号線など、地元の子どもたちにとって身近な風景の来歴を知ることは、過去・現在・未来をつなぐ視点を育てるというESDの目標に合致している。何よりも、調査の進展が、史跡保存の進展に直結した事例を知っても

旧版	2ページ	キーワード
章立て	視点	
3. 地いきの発展につくした人々 (4) 文化財を守る —平城宮跡の保存につくした人々—	過去 現在	棚田嘉十郎 保存運動 国による保存 平城遷都1300年祭
改訂版	12ページ	キーワード
章立て	視点	国宝、重要文化財、世界遺産
4. くらしのなかに伝わる願い		「古都奈良の文化財」
(1) 奈良の世界遺産		身近な文化財を知る① 棚田嘉十郎 横断する線路 国の史跡 保存運動 国道24号線バイパス
・古都奈良の文化財 ・平城宮跡の保存につくした人々	過去	
・平城宮跡の発掘調査	現在	発掘 測量、記録 奈文研 当時のようすがわかる
・文化財や世界遺産とともに ・奈良県の世界遺産	未来へ	建物の復原 活用 展示 解説ボランティア 平城宮跡歴史公園 伝える 「法隆寺地いきの仏教建築物」「紀伊山地の聖場と参道」

図51 旧版と改訂版の平城宮跡の変更・追加項目



図52 新たに取り入れられた内容（左：72頁「平城宮の発くつ調査」右：74頁「文化財や世界遺産とともに」）

らうことは、地域の文化財への理解につながるといえる。

「平城宮跡の発くつ調査」－現在・調査－ 史跡として守られた平城宮跡で、現在どのような取り組みがなされているのか、奈文研の継続的な調査・研究を紹介する項目を設けた。なぜ発掘調査をするのか、子ども目線からの関心や疑問に対してやさしく解説している。「発くつ調査によって、当時の建物や生活の様子がわかるんだね」とし、そして「発掘調査でわかったことをどのように活用しているのだろうか」と、研究成果の還元方法について、次項への展開を導いている。

「文化財や世界遺産とともに」－未来へ・活用－ 将来に伝えるためにしていること」として、活用に焦点を当て、復原建物や展示施設での取り組みについて触れている。ここで重要なのが、ボランティアの活動である。研究成果や、平城宮跡の素晴らしさを第三者に伝える立場として、奈文研解説ボランティアは展示活用に欠かせない存在となっている。平城宮跡が多様な機関によって維持・管理・運営され、また解説ボランティアのような個々人の努力によって守られていること、その土台には地域の理解や想いがあることを知ってもらうのが狙いである。

今後の「平城宮跡」校外学習への影響 以上、『奈良県のくらし』の改訂内容について紹介した。地元を過去・現在・未来から考えるというESDの視点で、平城宮跡の来歴を考えさせる内容であり、奈良県の子どもたちに、次の時代へ平城宮跡を伝えていく役割を担ってもらいたいのは勿論のこと、身近な市町村にある史跡や文化財にも興味や関心を持ち、地域の一員としてそれらを未来へ引き継ぐことを自覚する一助となれば幸いである。

今回、校外学習のテキストに平城宮跡が大々的に取り上げられたことで、学校団体による平城宮跡のさらなる

利用増加が見込まれる。平城宮跡の学校団体の利用は、県外が多く、県内の利用が少ないことがあきらかとなっている⁴⁾。その結果を受け、次年度以降、県内の学校団体を受け入れやすくするために平城宮いざない館の開館時間の繰り上げや、学習シートの配布を計画している。学習シートは、改訂版『奈良県のくらし』に沿った内容かつ平城宮跡出土の展示品と関連した内容で⁵⁾、奈良市教育委員会と奈良県教育委員会の協力を得て、県内の全小学校に配布する予定である。文化遺産に恵まれた奈良県の子どもたちが学ぶ教材として、また、文化財や史跡の未来の担い手を育てる教材として、平城宮跡が今後より一層活用されることを願ってやまない。（廣瀬智子）

註

- 1) ESD (Education for Sustainable Development) の略で、「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」と定義される。
- 2) SDGsとは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2030年までに達成すべき国際目標のこと。17のゴール・169のターゲットで構成され、教育は目標4に位置付けられる。ターゲット4.7に「持続可能な開発を促進するための必要な知識及び技能の習得」に向けて取り組むこととされている。
- 3) ユネスコ本部が認定したESDの推進拠点であるユネスコスクールでは、特に意識して取り組まれることが多い。
- 4) 平城宮跡管理センターの2019年度の分析による。
- 5) 地域総合学習を意識した県内版と、修学旅行・遠足を意識した県外版の2種類を平城宮跡管理センターと共同で作成。

参考文献

- 日本ユネスコ国内委員会『ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引（初版）』2016。
 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』2017。
 奈良市教育委員会・世界遺産学習連絡協議会『世界遺産学習全国サミットinなら世界遺産学習－これまでの10年これから10年－』2020。